

## 第67回定時株主総会 Q&A

Q1. 豪州事業での干ばつ対策として、水の確保は大丈夫でしょうか？

A1. 豪州事業の譲受を検討した際、最大のリスクは干ばつでした。昨年末から本年初めにかけての豪雨による水害で、本年度のトマト収穫量は例年の3分の1程度になりましたが、この豪雨で2～3年分の水が確保できました。水害による被害は残念でしたが、結果として、当分の間、水の心配はなくなりました。

Q2. 放射能汚染の長期化が予想される中、生トマト買い付けでの安心・安全の確保はどのように進めるのですか？

A2. 連日のように放射能関連の報道があり、株主の皆さまのご心配には私も共感いたします。3月11日以降、全社を挙げて放射能汚染からの安心・安全の保証に取り組んでいます。

当社最大の農産加工品はトマトです。国内加工用トマトは例年約2万トンですが、今年は那須工場の被災と福島県での契約栽培休止により、1.4万トン程度の予定です。

安全確保の第1段階は産地である各県の各農地でのトマト自体の安全性検査です。第2段階は工場の環境、すなわち水や大気的安全確認です。そして第3段階は商品自体の安全確認です。こうした詳細な検査のために、放射能検出機器等を約5,000万円で購入いたしました。

一方、福島県では本年の契約栽培を休止しましたが、これはお客さまに食べていただく商品の安心・安全の確保と同時に、従業員やトマトを作っていただく農家の安心・安全にも配慮した決定です。試験栽培を通して、放射能の土壌への蓄積、トマト生体への影響について、福島県や全農と協力して調査し、安全を確認した上で来年以降の栽培ができればよいと考えています。

Q3. 飲料商品に着色料や糖분을添加しませんか？

A3. 本日、ロビーで試飲していただいた野菜飲料を含め、当社の野菜飲料は化学合成の着色料は使用しておりません。また、糖分も野菜や果物の素材由来のものがほとんどですから、ご安心いただきたいと思います。

Q4. 日除けにゴーヤが各所で活用されているがトマトも利用できませんか？

A4. 当社ではクールビズと言われる前から環境への配慮には取り組んできています。最近の事例としては、福岡にある九州支店では屋上緑化を行い、効果を確認しています。省エネの視点からも、トマトをもっと多面的に活用いただける取り組みを考えていきたいと考えています。

Q5. 当社商品は高いと思います。価格政策はどのように考えているのですか？

A5. 当社の商品づくりの基本は品質第一です。価格を下げるために品質を下げたり、安心・安全を損ねることがあってはならないと考えています。その中でお客さまにご理解して購入いただける「値頃感」を大事にしています。ここ2年間、「品質を上げてコストを下げる」ことに取り組んでおります(関連質問Q9.)。

もうひとつ大切なことは他社商品との「価格差」です。一時期、店頭価格差が大きく開いたことがありましたが、一定の範囲に収めるよう価格設定を行っています。

Q6. お客さまに品質の良さをどのように伝えていきますか？

A6. まず、商品のパッケージ、そして広告で商品価値をお伝えし、併せていろいろな販売促進活動も行っています。一例として、全国4千の小学校等にトマトの苗を配布、栽培していただき、その良さを伝える活動を行っています。さらに、当社管理栄養士が栄養士会や病院などで料理教室を行い、価値を伝える活動を行っています。その他、ホームページでも価値伝達の活動を行っています。

Q7. 17万名の個人株主をもつことの意味をどう考えていますか？

A7. 個人株主が17万名いるということは、カゴメグループの経営を監視していただける目が17万名もいてくださる。このことが正しい経営を行う上で、最大の効果を発揮していると考えています。

Q8. 当社の心臓部は東日本に集中していませんか？

A8. 今回の震災で那須工場、茨城工場など東日本の拠点が被災しました。愛知県内には、東海市にソース工場、豊川市にケチャップ工場、小牧市に乳酸菌と紙パック飲料の工場があります。この他、長野県、静岡県にも飲料工場があります。東日本以外にも既に工場の分散は行っておりますが、今後もリスク分散を念頭に検討してまいります。

Q9. 「品質を上げればコストが下がる」とは通常概念と異なると思いますが、どういう意味でしょうか？

A9. 品質とは商品そのものの品質だけではなく、従業員、生産ライン等のトータルな品質管理を含めて考えています。全てのプロセスで品質を高めれば、廃棄ロスが少なくなり、バラツキも解消し、結果的にコストが下がるという意味です。

Q10. ラブレを始め、沖縄でカゴメ商品が購入しにくい理由を教えてください。

A10. 昨年、「野菜生活 100 沖縄シークワサーミックス」を発売し好評を得ています。これにより、沖縄産シークワサーの10%をカゴメが使用することになりました。今年の5月に、再び沖縄県を訪問し仲井真知事とも会い、沖縄産農産物を「地産全消」という形で取り入れていくことを話し合いました。併せて、地元スーパーなどにも訪問し販売協力をお願いをしてきました。今後、沖縄でも当社商品のお取り扱いを増やしていただけるよう努力してまいります。

Q11. ジュースの絞りかすはどうしているのですか？

A11. ジュースを絞った残りを社内ではパルプと呼んでいます。栄養価値がありますから商品特性に合わせて最大活用に努めています。例えば、野菜生活 100 Refresh! シリーズはさらっとした飲み口にするためパルプを少なくし、野菜1日これ一本はパルプを多く使用し飲み口を濃くしています。社内で利用しきれないパルプは飼料としてご利用いただいています。

Q12. 3月11日以降の国内トマト原料はいつから商品に使用されるのでしょうか？

A12. 現在、野菜飲料に関して言えば、3月11日以降の国産野菜は使用しておりません。国内トマト原料の使用は、8月の新物ストレートトマトジュース以降になります。

Q13. 3月11日以降の原料から基準値以上の放射線が出たら開示するのでしょうか？

A13. 仮定の質問に対するお答えになりますが、農地は当社の所有ではありませんので、開示は生産主体である農家や全農、県の方々などと相談した上で決めることになります。

Q14. 売上高対比の宣伝広告費比率は、食品業界平均と当社はそれぞれどのくらいなのでしょう？

A14. 食品業界平均は4~5%程度です。10%近いところもありますが、当社も4~5%程度です。具体的には、各年度の新商品やプロモーションとの関係で決まります。

Q15. 工場が完全復旧しない中で夏の休日を増加させても、商品供給は大丈夫なのでしょう？

A15. 電力不足対応で7・8月休みを増やすのは本社部門です。工場は従来通り24時間体制で稼働させますから、商品供給に問題はございません。

Q16. おいしい商品を発売してください。

A16. 社員一同、より一層、安心・安全でおいしい商品をつくるよう努力してまいります。

以上